



當間モリオ

議会活動だより

Vol.8

2010.7.1

まっすぐ真剣に 政治に挑む。

今必要なのは「強い経済」

梅雨も明け沖縄らしい天気になってきましたが、政治の場面では晴れ間が未だ見出せない状況ではあります。これからの時代を乗り切るためには政治が変わらなければとの国民の強い意思で政権交代を現実のものとなりましたがまだ期待に沿えるものにはなっていない事も確かであります。普天間問題や政治と金に翻弄され、言葉に重きがなく理想と現実のつかみが出来なかったことが今回の短命内閣の原因でしょう。期待が大きかった分残念であります。また毎週のように世論調査で審判を受ける現在の報道の在り方には誰がリーダーになっても短命になってしまうのではないのでしょうか。マスコミの報道のあり方には疑問があります。問題解決の方向ではなく出来ない方向ばかり報じる。批判の記事ばかりではなく解決策を示す知識人の報道もあってよかったのではないのでしょうか。普天間基地の危険性除去を一番に考えることが大切であります。固定化は避けなければなりません。

鳩山政権は普天間問題ではゴールこそ出来ませんでした。沖縄の基地問題をこれだけ全国に発信した総理はいません。将来的に県外国外の道を造ったことも確かでありその意味からするといい仕事されたのではないのでしょうか。しかし、沖縄でこれ以上「海」を潰してまで基地を造る必要はありません。また出来ません。財政的に厳しい状況を見ると基地に税金を投下する余裕は無い筈です。県外の自衛隊施設など既存の施設を活用することが近道です。お金も掛かりません。安全保障も真剣に国会で議論をすべきです。他人ごとが沖縄に過重な基地負担を押し付ける状況を作ったのではないのでしょうか。

菅総理に政権は変わりました。「強い経済、強い財政、強い社会保障」を掲げています。

強い経済を「新成長戦略」で造って行くこと。環境・健康・アジア・観光の4分野を重要項目としていく戦略が、どの項目をとっても係わりがある地域は沖縄だけです。このことは沖縄にもっとチャンスがあること言うことです。「国際戦略総合特区」の創設は大都市を想定しているようですが、これこそが沖縄には必要でポスト振計になります。基地に頼ることが無い「強い経済」を造る為にも当然に勝ち取っていかねばなりません。

戦後65年、真に沖縄が変わる時です。東京向きではなくアジアを向いていく強い経済で雇用創出して生活を安定させ子供たちの教育、人材育成をして行くことが必要です。経済と財政を安定させることで社会保障を充実する、政治の一番の仕事は弱者への政策でもあります。そのことを忘れることなくこれからも真剣に政治に取り組んでいきます。

沖縄県議会議員 當間 盛夫